

ii!! TAC. 通信

Tとことん、A会って、Cコミュニケーション !!

【 JA版・第808号 】

本所 耕種総合対策部 TAC・営農支援課提供 令和7年11月26日 更新

次回は令和7年12月10日(水)配信予定です。

★各欄の《下線部分》をクリックしていただきますと、記事内容が表示されます★

†TAC!!公式アカウント 友達募集中†

TAC公式LINEアカウントではTACの皆様が日々扱い手に訪問する際に
話のネタになる情報や営農技術関係の情報などを配信しています。
ぜひご登録ください！

■登録は右のQRコードからお願いいたします■



お知らせ

■東京都本部×群馬県本部 東京うど本部間でのマッチング群馬県本部の協力のもと「東京うど根株の受託(掘り取り編)」(11/18) NEW

11月18日に、群馬県に高冷地委託されたうど株の掘り取りを実施しました。当日は、天候もよく十分に生育したうどをトラクターと専用掘り取り機を装着して、効率よく作業を実施しました。生産者からは、見事な出来栄えになったと、称賛の声が上がった。今後も引き続き継続できるように群馬県本部と連携させていただきたいと考えております。



【「東京うど」の根株掘り取りの様子】

■群馬県本部「営農支援システムの操作研修会」を開催(11/10) NEW

群馬県本部生産資材部扱い手推進課はJAはぐくみにて、11月10日(月)に営農支援システムの操作研修会を実施しました。本研修は、JA支援で取り組む「系統未低利用・大規模生産者への推進体制構築」の一環で、情報の相互活用による推進活動の進捗管理や生産者情報の蓄積、推進手法の確立を目的としています。4名が参加し、パソコンを用いて実際の操作方法を確認しました。参加者からは「操作方法を理解出来た」との感想がありました。



【研修会の様子】

■鳥取県本部「鳥取アグリフェスタ2025」を開催(11/8・9) NEW

鳥取県本部は11月8日・9日、JA鳥取中央北条支所構内にて「鳥取アグリフェスタ2025」を開催しました。当日は初の試みとなる県下統一農機展示会との合同開催で、アグリフェスタでは扱い手に対し、直播栽培についての情報提供とVRによる農作業事故模擬体験、リゾケア・ザルビオ・肥料農薬等の提案等を行いました。セミナーは2日間で約250名ご参加いただき、県内大規模農業法人による「ドローン湛水直播による次世代稻作」についてと農研機構による「西日本での水稻乾田直播栽培」についてのご講演をいただきました。

鳥取県本部では今後も扱い手に対し、水田農業発展のための情報発信を行っていきます。



【セミナーの様子】

■千葉県農協A.T.A協議会・全農千葉県本部「水稻総合研修会」を開催（10／21）

千葉県の7年産米・水稻を振り返り、課題対策のため10月21日、千葉県下JAのTAC・営農指導員・経済担当等で構成された「千葉県農協A.T.A協議会」と全農千葉県本部は水稻に特化した総合研修を共催し、県下JA・関係機関など70名が参加しました。

7年産では育苗段階から発芽不良が頻発しており、本研修では播種～育苗技術の再確認をテーマに千葉県庁より講師を招き、講義を頂きました。また、千葉県全域で課題となりつつある「イネカメムシ」の対策と取り組みや、省力・低コスト、スマート農業、土づくり、千葉の水稻作で恒常的な課題である「藻類」対策等をキーワードにJA・メーカー等より取り組み報告および協議・検討をおこないました。

本研修を通して、県下JAのTAC、営農指導員等の更なる資質向上とJA営農指導事業の強化、水稻生産者の経営安定に活かしていきます。



【① 研修の様子、②～④資料の抜粋】

■東京都本部×千葉県本部「千葉県本部主催：JA営農・経済担当者向け『研修会』（水稻に関する基礎）」に参加（10／21）

東京都本部管内のJA職員2名は、千葉県県域が主催した「都県外職員参集研修会」に参加した。東京都の水稻生産は少ないが、興味あるJA職員は熱心に講義を受講した。また、他県JAとの交流もあり参加したJA職員は、有意義な研修だったと語っていた。



【都県外職員参集研修会の様子】

■東京都本部×群馬県本部 東京うど本部間でのマッチング「うど根株の受託」

東京都本部は、群馬県本部の協力のもと「東京うど」の根株養成の関する取り組みをしました。

江戸東京野菜でもある「東京うど」は、北関東の寒冷地で根株を一定期間養成させたあと東京へ持ち帰り、ムロという日光の当たらない穴の中で伏せ込んで出来上がります。近年、各受託者の高齢化により受入体制が困難となる中、群馬県本部協力のもと、うど根株養成の受託者と都内生産者のマッチングが実現しました。



【うど栽培の様子】

■静岡経済連「令和7年度営農経済事業パワーアップ大会」を開催！（10／21）

静岡経済連は10月21日に県農業会館講堂にて、営農経済事業パワーアップ大会を開催しました。農家組合員の課題・要望の解決、経営安定と所得向上を図るために「出向く活動強化するために必要なこと」と題して、優良事例報告や分科会を通じて、営農経済事業取組みのレベルアップを目的に開催されました。県下JA営農経済部職員、各連合会に加え、同時開催した商品提案会参加の肥料農薬資材各社からの出席もあり100名超の規模となりました。

全農西日本事業所より全国情勢とTAC活動報告に続き、県外事例報告では全農TAC・出向く活動パワーアップ大会2024で地区別優秀賞を受賞したJA湘南の濱端氏による「世界初 ピーマン革命」、同全農会長賞のJA京都中央の佐藤氏から「京おくら新たな産地化へ～ゼロからのスタート～」の講演の後、分科会が行われました。

大会後の参加者アンケートでは、情勢報告、優良事例報告、分科会が全て90%を超える高評価となりました。次年度の開催も、JA営農経済職員が実践で役立つ大会を目指します。



【令和7年度営農経済事業パワーアップ大会の様子】

■東京都本部「JA経済担当職員窓口現地研修会」を開催（10／15）

東京都本部は、10月15日にJA経済窓口職員研修を、肥料農薬の基礎知識の習得を促し窓口対応の円滑化・事業拡大を図ることを目的として開催しました。

参加者40名は、普段見学できない肥料・農薬の製造工場を視察した。「実際に取扱している資材の生産現場を確認できたことで、安心・安全を組合員にお届けできる」「推進にも力がはいる」と語っていた。



【研修会の様子】

■愛媛県本部「よりよい営農活動研修会」を開催（10／9）

愛媛県本部はJAの野菜・花卉担当指導員で組織するJA愛媛園芸指導員会を事務局として、「よりよい営農活動研修会」を開催しました。「よりよい営農活動」については、GAP手法（5分野：食品安全、労働安全、環境保全、人権保護、農場経営管理）を用いて生産現場の課題解決を図るとともに、安全・安心・環境に配慮した農業の推進を通じて、持続可能な農業の実現に向けた営農指導を進めることを目的としています。

当日は、JA及び県本部職員、県中央会より20名の参加のもと、全中より講師を招き、座学とGH農場評価実践研修を行いました。今後についても、営農指導場面で「よりよい営農活動」に取り組めるよう、人材育成も含めて取り組んでいきます。



【研修会の様子】

■千葉県本部「令和7年度 第3回基礎研修及びA.T.A生産技術部会（果樹）」を開催（10／7）

千葉県本部営農園芸部営農支援課は、10月7日に「令和7年度 第3回営農・経済担当者向け基礎研修（果樹に関する基礎）及びA.T.A生産技術部会（果樹）」を開催しました。A.T.Aとは、Agricultural（農業の）. Technical（技術上の）. Adviser（相談相手）の略で、総合的な営農指導を目指します。

基礎研修では、県内での果樹生産、特にナシ栽培について学びました。A.T.A生産技術部会では、今年度の生産総括を踏まえ、協友アグリ株式会社より交信搅乱剤の活用について、千葉県庁担い手支援課よりニホンナシにおける包括的IPM体系について説明があり、ナシの防除を深く学ぶ機会となりました。

千葉県本部では、今後も総合的な営農指導を目指した人材育成に取り組んでいきます。



【研修会の様子】

■三重県本部「営農経済専門担当者合同会議」を開催（10／7）

J A全農みえ営農対策部は10月7日、津市の三重県総合文化センターで三重県営農経済渉外担当者合同会議を開きました。J A営農経済渉外・T A C担当者が相互に現場課題の共有や情報交換をすることを目的に初めて実施し、J Aや県農業改良普及センター、全農みえから約40人が参加しました。

関連機関・部署からの情報提供として、獣害対策の考え方や電気柵の正しい使い方、米穀情勢、園芸・水稻資材の提案、バイオスティミュラント資材の紹介、ジャンボタニシ対策、共同購入コンバインの紹介、スマート農業に関する案内などを行いました。

J Aにおける課題の共有・情報交換として、農家との接点づくりや接し方について、購買・販売の推進戦略、提供情報がない時や農家繁忙期の訪問時の工夫などの項目をもとに課題や対応方法を共有しました。情報交換では、若手育成で実施していることや部門間連携の進め方、T A Cの体制やD X推進方法などについて活発に意見を交わしました。

参加者からは、「農家訪問時の武器となる情報が得られるため、県内J Aの間で横のつながりを持てる機会を引き続き作ってもらえるとありがたい」などの意見がありました。



【会議の様子】

■愛媛県本部「令和7年度 農林水産参観デーにスマート農業ブースを出展」（10／1-10／2）

愛媛県本部は10月1日・2日、愛媛県が主催する令和7年度農林水産参観デーに西日本営農技術センターと協力し、「ザルビオ」・「Z-G I S」等のスマート農業ブースを出展しました。

当日はブースを訪れた生産者に対し、「ザルビオ」の生育ステージ予測による近年の気候変動に合わせた栽培管理や手作業またはスマート農機を活用した可変施肥による収量増・コストダウンが可能になることなどについて説明しました。愛媛県本部では、引き続き低コストで農家が取り組みやすいスマート農業の推進を行うとともに、県下J Aに積極的に情報提供を行っていきます。



【ブースを出展の様子】

■J Aわかやま「令和7年度営農経済渉外パワーアップ大会」を開催！（9／26）

J Aわかやまは9月26日に和歌山県J Aビルにて、4月の県一合併後初となる営農経済渉外パワーアップ大会を開催しました。「組合員への訪問面談活動による新たな需要の創出と出向く体制の強化をはかる事」をテーマに、営農経済部門の管理者及び営農経済渉外リーダー、担当者が一堂に会し総勢50名で実施されました。

系統経済事業活性化運動の結果について営農経済企画室から報告ののち、T A C・出向く活動パワーアップ大会2025地区別審査委員会で発表があった紀州地域の津村氏、本大会へ選出されたながみね地域の土谷氏より取組事例の発表がありました。基調講演では同大会2024 J A部門優秀賞のレーク滋賀より田中次長、西村課長に「出向く活動に向けたJ Aの取組について」と題して講演いただきました。その後の分科会では、合併後の出向く活動について地域を越えた情報共有をおこない、下期に向けた取組みの強化を再確認する貴重な機会となりました。



【営農経済渉外パワーアップ大会の様子】

■本所耕種資材部 施設園芸企画課「トレーニングセンター幸手 研修者二次募集開始のお知らせ」

全農施設園芸企画課では、令和8年に埼玉県幸手市に設置する「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」（埼玉県幸手市）にて、第一期研修者の二次募集を開始いたします。

栽培品目	トマト・ナス・キュウリ
研修期間	令和8年10月～令和10年9月（原則2年間・応相談）
研修費用	無料
雇用契約	本会の臨時職員として雇用（更新期間の定め・更新上限あり）
賃金	時給1,078円（令和7年5月現在。埼玉県の最低賃金に準ずる）
就業時間	8:30～17:00（繰り上げ・繰り下げあり）
応募資格	① 普通自動車運転免許必須(AT限定可) ② 入会時に住民票がある地域のJA組合員になる方 ③ 10年以上営農を継続できる方 ④ 性別、農業経験の有無は不問
応募方法	① 「ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手」研修（求職）申込書 ② 身上調書 上記2点をHPよりダウンロードいただき、事務局へメール送付ください。
応募期限	令和7年12月5日（必着）

より詳細な情報については、HPに掲載の研修者募集要領をご覧ください。

【HPはこちら】⇒⇒（[ゆめファーム全農トレーニングセンター幸手の紹介 | JA全農](#)）

We b個別説明会も随時開催中です！下記URLよりお気軽にご応募ください。

【個別説明会申込ははこちら】⇒⇒<https://forms.office.com/r/yDVfGbDY2y>

今後も都度HPやTAC通信・TACLINE等を用いてこまめに発信していきますので、引き続きよろしくお願ひいたします！

■農林水産省からご案内

農林水産省「有機農業の日」特設ウェブサイトへの事例掲載について

12月8日の「有機農業の日」に合わせて、特別期間（2025年11月14日（金）～12月14日（日））を設け、農林水産省ウェブサイト内の「有機農業の日（オーガニックデイ）」特設ウェブサイトにおいて、掲載応募者の取組を掲載することにより、有機食品の認知度向上や販売促進等に関する情報発信を行います。

すでに応募いただいた方におかれましては、ありがとうございました。確認が取れたものから順次アップしておりますので、引き続きよろしくお願ひします。

また、「有機農業の日」に向けて取組をより盛り上げるため、ハッシュタグ「#有機農業の日」「#オーガニックデイ」を付けて、SNS等を活用した情報発信のご協力もよろしくお願ひします！

農林水産省「有機農業の日」特設ウェブサイト↓

[有機農業の日（オーガニックデイ）～有機農業を盛り上げる取組に参加しませんか～：農林水産省](#)

掲載内容

- ①学校給食での有機農産物等の利用予定
- ②小売事業者等による有機食品の販売促進・情報発信の取組予定
- ③有機農業関連イベント情報

掲載は応募は現在も受付中です。ご応募お待ちしております。



農林水産省【参加者募集】農業参入事例の情報交換会のご案内

1. 農林水産省では、他地域等からの参入事例や行政の取組・支援についての情報交換を目的に、「他地域等から参入した担い手の事例に関する情報交換会」をオンラインで開催します。第4回は、農業分野への出資等を通じて参入した企業から、参入の経緯や苦労等について、お話しいただきます。

▼第4回情報交換会の開催概要

- ・日時：11月18日（火）13:30～（2時間）
- ・事例発表者：事例発表者：双日（株）、（株）三井住友銀行、（株）かまくらや

※参加は無料です。

▼開催内容や申込方法の詳細は、こちら。

https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou_sannyu.html

▼お問合せ先

農林水産省経営局 経営政策課扱い手企画班 TEL : 03-6744-2143 (直通)



2. 農林水産省及び日経ビジネスは、法人の農業参入を促進するため、農業参入を希望する法人と法人を誘致したい地域の具体的なマッチング等を行う「農業参入フェア 2025」を開催します。

▼農業参入フェア 2025 の開催概要

(1) 大阪会場

- ・日時：12月9日（火）13:00-15:10（開場 12:30）
- ・会場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）（大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51）
- ・事例発表者：（株）パソナ農援隊

(2) 東京会場

- ・日時：12月17日（水）13:00-17:00（開場 12:30）
- ・会場：東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内3丁目5-1）
- ・基調講演者：（株）農林中金総合研究所
- ・事例発表者：（株）マイファーム、北海道エア・ウォーター・アグリ（株）

▼詳細は、こちら。事前登録制で参加費無料です。

<https://www.maff.go.jp/j/press/keiei/seisaku/251027.html>

▼農業参入フェア 2025 プレイイベントとして9月に開催しました「農林水産省と参入企業とのトークセッション」のアーカイブ動画を公開しました。動画の視聴は無料です。視聴には別途ログインが必要です。

https://www.maff.go.jp/j/keiei/koukai/sannyu/kigyou_sannyu.html#nougyou2025

▼お問合せ先

農林水産省経営局 農地政策課有効利用グループ TEL : 03-6744-2152 (直通)



技術情報

■農研機構 技術情報 自家和合性と自家摘果性を併せ持つ中生のニホンナシ新品種「ゆつみ」

(農研機構HPへリンク) NEW

今週は、自家和合性と自家摘果性を併せ持つ中生のニホンナシ新品種「ゆつみ」の研究成果を紹介します。

【概要】

ニホンナシ栽培においては、人工授粉や摘果等の結実管理作業に年間労働時間の約4分の1に相当する10アールあたり約70時間が必要となっており、これら作業の省力化が可能な品種の育成が求められている。これまで農研機構では、人工授粉作業の省力化が可能な自家和合性品種として「なるみ」を、摘果作業の省力化が可能な自家摘果性品種として「あきあかり」や「凜夏」を育成してきたが、これら2つの特性を併せ持ち、人工授粉作業と摘果作業の両方の省力化が可能な品種はこれまで育成されていない。自家和合性と自家摘果性を併せ持つことから、本品種の導入による結実管理作業の大幅な省力化が期待できる。

※農研機構プレスリリース・普及成果情報は扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」18_（TAC広報・情報誌）にリンクを貼付しています。

（出典：農研機構HP 普及成果、研究成果より）

～全農は、農業現場が抱える課題の解決に向けて、農研機構と連携し、新技術・新品種の産地提案や実証試験を通じた普及推進に取り組んでいます～

■農薬研究室 技術情報 農薬使用の際の保護具について（アピネス／アグリインフォHPへリンク）NEW

今回は農薬使用の際の保護具についてご紹介します。

農薬を「安全に使う」ためには、きちんと保護具をつける必要があります。農薬を使用する際の「保護具」についてご紹介です。

扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」04_（農薬）にも格納してあります。

（出典：アピネス／アグリインフォHP 営農情報より）

農業労働力支援

■全農本所TAC・営農支援課 「全国労働力支援協議会」の開催

本所TAC・営農支援課では、全国6ブロックに設置したブロック別労働力支援協議会での協議を踏まえ、農業労働力支援を通じた地方創生・地域活性化を目指す「全国労働力支援協議会」を令和4年3月に設立し、設立以降毎年開催しております。

6ブロックの協議会（北海道、東北、関東甲信越、北陸東海近畿、中国四国、九州）と、全中、全共連、農林中金、全農およびパートナー企業を構成団体とし、オブザーバーとして農水省他関連省庁や関係企業等にも参加いただいている。

今後、本所TAC・営農支援課は協議会を通じて、①農業への多様な人材の活用促進、②農業以外の他産業との連携促進、③後継者誘導しやすい環境づくりの促進を目指し、農業だけでなく地方が抱える課題の共有と解決に向けた取り組みを進めます。

■全農本所TAC・営農支援課 「91農業」の提唱

本所TAC・営農支援課は、様々な方々に農業参加を促す新たなライフスタイル「91農業」を提唱しております。

他産業・一般の方々に向けて、①農業へのハードルを下げる農業参加を訴求すること、②パートナー企業連携による農作業請負の取り組みを広く周知すること、等を目的として「あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか？」をコンセプトに、少しでも多くの方が農業に関わるような環境を目指して全国労働力支援協議会とも連携しポスターやHP等でPR活動を進めています。



- 9本業1農業：休みの日に1日農業、新しい副業の形
- 9育児1農業：子育てしながら一時期に農業、新しいパートの形
- 9旅行1農業：旅行の1日に農業、新しい旅行の形
- 9夢追1農業：夢を追いかながら一時期に農業、新しいバイトの形
- 9自宅1農業：家以外に居場所が一つ増える、新しい就労支援の形

事業承継

■全農本所TAC・営農支援課 「事業承継支援 虎の巻」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では事業承継ブックを活用した事業承継支援にかかるTACの技を収集し、全国のTACの皆さんに「達人の極意」として共有いただけるよう「事業承継支援 虎の巻」を発信しています。

あなたの「技」を全国のTACへ伝授いただけませんか？伝授についてのご相談は県域TAC部署を通じて本所TAC営農支援課にご連絡ください！

扱い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。ご活用ください。

■全農本所TAC・営農支援課 「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」のご案内

全農本所TAC・営農支援課では訪問チラシ「Z-GISで効率的な事業承継の実現を！」を作成しています。Z-GISの推進および事業承継の啓発の際にご活用ください。[こちら](#)からご確認いただけます。

■全農本所TAC・営農支援課 「JAグループにおける事業承継ブック親子版を活用した事業承継支援の手引き」のご案内

全農本所TAC・営農支援課ではJA全国扱い手サポートセンターと連携し、JA等職員に「事業承継ブック親子版」を一層活用いただくべく取り組みポイントを整理し、支援の具体的イメージが理解できるよう手引きを作成しています。

ご一読いただき皆様の事業承継支援の取組の後押しとなることを願っています。

手引きは、担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。

■全農本所TAC・営農支援課 事業承継啓発チラシ親子別Ver. のご案内

全農本所TAC・営農支援課は、事業承継啓発に係るツールとして親子で別々に活用できるチラシを作成しています。このチラシは「初めて親、子の意向の聞き取る際に親と子で別々にアプローチすると進めやすい」というTACの声をもとに作成しました。個別ヒアリング後、内容を親子で共有する場をつくることで、以後の経営者と後継者の話し合いのきっかけとなるよう事業承継を提案する最初の一歩目のツールとして使いやすいものとなっていますので、担い手訪問の際に持参していただければと思います。

チラシデータは担い手営農サポートシステム「ナレッジ」17_（新規就農・事業承継）にも格納済みです。

■事業承継ブック（部会版）発行・配付

本所TAC・営農支援課は「事業承継ブック～産地全体の話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック部会版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願いします。

全農 HPは[こちら](#)

■事業承継ブック（集落営農版）発行・配付

本所TAC・営農支援課では各県からの意見に基づき、「事業承継ブック～世代を超えた話し合いのきっかけに～」（事業承継ブック集落営農版）を発行し全農HPで公開しています。是非、各県でのTAC活動を通じて活用をよろしくお願いします。

全農HPは[こちら](#)

Z-GIS

！！Z-GIS の動画のご紹介！！



全農本所スマート農業推進課が、新たにZ-GISの動画を1編作成しました。計3篇を公開しますので県やJA・生産者のへの導入、展示会等のPRにぜひご活用ください。
Z-GISスタートアップガイドは[こちら](#)
Z-GISユーザーインタビューは[こちら](#)
Z-GISユーザーインタビュー2020は[こちら](#)



■本所スマート農業推進課～スマート農業の先進事例を見てみよう！～「Z-GIS・ザルビオ活用ガイド2023／2024」を発行（ご案内）

本所スマート農業推進課では、Z-GIS・ザルビオの利用促進、さらなる普及拡大を目的に、令和元年度のZ-GIS導入ガイドから始まり、令和4年度は「Z-GIS・ザルビオ活用ガイド2023／2024」を発行しました。

各システムのユーザーである全国の生産者、JAにインタビューを実施し、計8事例掲載しております。また、ガイドの冒頭2ページに、Z-GIS・ザルビオを導入いただいたユーザーのスタートアップを支援するため、利用登録から圃場・作付登録までの手順を掲載しております。

冊子をご要望の方は、本所各営農資材事業所、本所スマート農業推進課までご連絡ください。また、Z-GISホームページや担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15_（スマート農業・ICT）でもPDF版を公開しております。

活用ガイド2023／2024は[こちらから](#)ご覧いただけます。

人材育成（TACアグリビジネススクール、他各種研修資料等）

■本所TAC・営農支援課 令和7年度TACアグリビジネススクール開催スケジュールのご案内

令和7年度のTACアグリビジネススクールについて、日程が決定いたしましたので下記の通りご案内いたします。

※第8～10回で開催時間の変更がありましたので、ご確認ください！ 2025/7/9 更新

回	日程	時間	テーマ
1	6/3（火）	10:00～15:00	農業を取り巻く情勢・取り組み
2	7/9（水）	10:00～15:00	生産資材・技術情報①
3	8/5（火）	10:00～15:00	農業労働力支援・相続・事業承継
4	9/3（水）	10:00～15:00	農業現場における労務管理・会計基礎

5	10／8（水）	10：00～15：00	会計・税務研修①
6	11／5（水）	10：00～15：00	会計・税務研修②
7	12／3（水）	10：00～15：00	会計・税務研修③
8	1／7（水）	10：00～15：00	総合事業連携の取り組み
9	2／4（水）	10：00～15：00	生産資材・技術情報②
10	3／4（水）	10：00～15：00	販売強化の取り組み

※日程やテーマは会議室・講師の都合により変更する場合があります。

■本所TAC・営農支援課 TACアグリビジネススクール収録動画の格納について（ご案内）

本所TAC・営農支援課は開催した「TACアグリビジネススクール」の講義内容の動画をYouTubeに限定公開しています。

動画URL・講義資料は担い手営農サポートシステム「ナレッジ」13_（会議・研修・手引き資料）にも格納済みです。

■「TACの手引き」、「TAC担い手訪問ハンドブック」

TACの意義や導入目的、取組の進め方など、TACの導入から運用に至るまでを網羅する「TACの手引き」と、担い手訪問のノウハウをまとめた「TAC担い手訪問ハンドブック」について担い手営農サポートシステム「ナレッジ」13_（会議・研修・手引き資料）に掲載しました。ご活用ください。

貸出資材

■全国共通資材の貸出

○のぼり、ハッピ、テーブルクロス

貸出申請書は、担い手営農サポートシステム「ナレッジ」18_（TAC広報・情報誌）22_（店舗・イベント）に格納されています。

○提出先：zz_zk_tac@zennoh.or.jp

◎必ずクリーニングをして返却してください◎

◎返却の送料は貸出先にご負担いただきます◎

○タペストリー

本所TAC・営農支援課は「TACパワーアップ大会2024」の開催にあわせ、TACタペストリー一覧を更新しました。イベント時などにご使用ください。

なお、使用時は「TACタペストリー貸出しマニュアル」のご一読をお願いします

○提出先：zz_zk_tac@zennoh.or.jp

※担い手営農サポートシステム「ナレッジ」12_（パワーアップ大会・営農指導員大会）に投稿済

経営相談

※無料ですので、積極的にご活用ください！！！

■担い手対応の経営相談

担い手を対象として経営に関する相談を行っています。 経営に関する税務の疑問・質問がありましたら、県域TACまで連絡ください。

■農業経営支援に関する役立つ情報を配信します！NEW

農業経営支援に関する役立つ情報をTAC通信、TAC LINEで配信をしていきます！

実際に合った事例や、過去の対応・決算データ等を基に現場のTACに分かりやすい形でお届けします。

◆記事はこちらから [Click here](#)

◇今後の配信スケジュール

TAC通信（毎月第4水曜日掲載）／TAC LINE（毎月末配信）

配信月 | テーマ

○ 節税のポイント！を全5回シリーズで解説！

- 5月 農地の取得・保有・譲渡編
- 6月 設備投資編（スマート農業、環境負荷軽減）
- 7月 青色申告編-①
- 8月 青色申告編-②
- 9月 法人化編

○ 事業承継支援に向けた担い手の経営税務に係る チェックポイントを全5回シリーズで解説！

- 10月 集落営農法人の事業承継
- 11月 個人親子間
- 12月 法人親子間
- 1月 個人第三者承継
- 2月 法人第三者承継

○ これだけはおさえておきたい！インポイスを解説！

- 3月 経過措置への対応策について

◆アンケートはこちらから！

農業経営支援に関する上記の記事の感想、今後取り扱ってほしいテーマなど皆さんのお声を気軽にお聞かせください！

担い手営農サポートシステム関連情報

■担い手営農サポートシステムの利用申請について

利用申請（新規、再登録、削除）については、Web上で実施していただきます。

（URL：<https://zennoh.my.site.com/entry>）

以下登録の手順をお知らせいたします。

- ①上記URLを開き、必要事項を入力
- ②入力内容を確認し、利用規約に同意する
- ③入力した内容が記載されたPDFがダウンロードされる
- ④申請情報で入力したアドレス宛に申し込み完了メールが送信され、PDFアップロードリンクが記載されている
- ⑤ダウンロードされた担い手サポート管理システム申請書PDFを印刷し、「情報機器管理者」「管理者」「担当者」欄に押印する
- ⑥PDFアップロードリンクに押印したPDFをスキャンしてアップロードして完了
- ⑦ヘルプデスクが入力内容を確認し、問題なければ、アカウント発行処理が実施される

詳細は担い手営農サポートシステムのナレッジに格納しております。

（ナレッジURL：https://zennoh.lightning.force.com/lightning/r/Knowledge_kav/ka02x000000WRyxAAG/view）

※ナレッジは担い手営農サポートシステムユーザーのみ閲覧可能です。

■ヘルプデスク連絡先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-5 リンクスクエア新宿9階

株式会社 全農ビジネスサポート

担い手営農サポートシステムヘルプデスク

TEL：03-3350-1157

Eメール：ninaite-help@z-bs.co.jp

ランキング集計

【 10月】月間ランキング

TAC一人当たり面談記録登録状況

J A別-面談記録登録状況

(訪問期間:2025/10/01 ~ 2025/10/31)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JALレク滋賀	2,128	66	32.2
2	JA仙台	1,533	38	40.3
3	JA金沢市	1,228	26	47.2
4	JAフルーツ山梨	1,211	27	44.9
5	JA常総ひかり	1,201	16	75.1
6	JA南彩	1,145	11	104.1
7	JAさいたま	1,047	15	69.8
8	JA兵庫南	1,000	14	71.4
9	JAくるめ	837	8	104.6
10	JA岡山	826	28	29.5

(訪問期間:2025/10/01 ~ 2025/10/31)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA京都にのくに	167	1	167.0
2	JA柏屋	289	2	144.5
3	JA西印旛	790	6	131.7
4	JAあさか野	772	6	128.7
5	JA福岡大城	126	1	126.0
6	JAさいかつ	482	4	120.5
7	JAよこすか葉山	677	6	112.8
8	JAしおのや	558	5	111.6
9	JAくるめ	837	8	104.6
10	JA南彩	1,145	11	104.1

★担い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：担い手対応）を集計

★11月11日登録までの集計

【 11月10日～11月23日】週間ランキング集計

TAC一人当たり面談記録登録状況

J A別-面談記録登録状況

(訪問期間:2025/11/10 ~ 2025/11/23)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA仙台	807	36	22.4
2	JALレク滋賀	672	44	15.3
3	JA金沢市	577	20	28.9
4	JAさいたま	470	15	31.3
5	JAフルーツ山梨	396	24	16.5
6	JA常総ひかり	370	12	30.8
7	JA兵庫南	363	12	30.3
8	JAよこすか葉山	346	5	69.2
9	JAくるめ	324	8	40.5
10	JA南彩	315	6	52.5

(訪問期間:2025/11/10 ~ 2025/11/23)

	JA名	件数	訪問人数	一人当たり
1	JA柏屋	253	2	126.5
2	JAなす南	263	3	87.7
3	JAよこすか葉山	346	5	69.2
4	JAさいかつ	223	4	55.8
5	JA福岡大城	55	1	55.0
6	JA南彩	315	6	52.5
7	JAふくおか八女	97	2	48.5
8	JAあきた北	288	6	48.0
9	JAなのはな	46	1	46.0
10	JA江刺	45	1	45.0

★担い手営農サポートシステムの面談記録数（業務種別：担い手対応）を集計

★11月25日登録までの集計

最近のメディア

○スマート農業情報

Z-GISのアップデート情報（積算気温抽出機能）

※担い手営農サポートシステム「ナレッジ」15_（スマート農業・ICT）に格納

○グリーンレポート11月号

新技術セミナー～中山間地域におけるスマート農業機械の活用～

JAと連携した農業普及活動～新規農業法人の育成と中心経営体への農地集積・集約～

届け！全農の取り組み～米の多収品種「ZR1」の開発と作付け拡大に向けた取り組み～

担い手とともに～新潟県上越市(農)ファームまちだ 武藤和美さん最新技術を活用して大豆の生産性向上に取り組む～

○経営実務9・10月号

いまこそTACだ！！ 石川県 JA金沢市 山口朝史氏 NEW

いまこそTACだ！！ 静岡県 JAハイナン 岩堀真也氏 NEW

○地上12月号

※「地上」の公式HPは[こちら](#)から。

○全農ウィークリー

2025年11月24日 (vol. 1128) NEW

※TAC活動の紹介等で転載する場合は申請不要です。

○AGRIFUTURE

No. 110 (JAわかやま) 発行 (6/25)

◆生産者の声：新しょうが／すもも／南高梅（なんこううめ）

◆クローズアップ：新しょうがレシピ

◆地域百景：日本一の梅ブランド／和歌山県の「すもも」

フリーペーパー：各県域TAC部署へ送付 HPは[こちら](#)

○全農HP

- ① [9.1 農業のインスタグラムを開設しました！～あなたのライフスタイルに農的生活を1割取り入れませんか～](#) NEW
- ② [JA全農が卓球日本代表選手を応援！11月23日から「ITTF世界ユース選手権大会2025ルマニア大会」開催](#) NEW
- ③ [「石川佳純 47都道府県サンクスツアーコースin青森」元卓球日本代表の石川佳純さんが全国を巡る卓球教室！](#) NEW

○農業協同組合新聞

- ④ [生活に1割の「農」を「91農業」インスタグラム開設 JA全農](#) NEW
- ⑤ [人財育成とスマート農業でJAの革新を 農協に関わるシンポジウム開催 東京農大](#) NEW
- ⑥ [【全中26年度畜酪政策提案】重点に生産基盤強化、生乳需給安定対策も](#) NEW
- ⑦ [「レイミー×Z-GIS連携ソリューション」リリース 専用サイト開設 日本農薬](#) NEW
- ⑧ [みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践（86）無機化合物（求電子剤・銅）【防除学習帖】第325回](#) NEW
- ⑨ [みどり戦略対策に向けたIPM防除の実践（85）炭酸水素塩【防除学習帖】第324回](#) NEW
- ⑩ [農薬の正しい使い方（59）生態に合わせた害虫防除の考え方【今さら聞けない営農情報】第325回](#) NEW
- ⑪ [農薬の正しい使い方（58）害虫防除の考え方【今さら聞けない営農情報】第324回](#) NEW
- ⑫ [【TAC・出向く活動 パワーアップ大会2025】全農会長賞 JA部門JA秋田なまはげ TAC部門JAわかやまの土谷さん](#) NEW
- ⑬ [シャインマスカット苗の「違法販売」防げ 注意喚起、商品削除…農水省とフリマ業者、対策に注力](#) NEW
- ⑭ [農林水産業の持続的発展へ金融・非金融で支援 サステナブル・ファイナンスは10兆円超 農林中金](#) NEW
- ⑮ [「乾田直播栽培技術標準作業手順書」新たな地域版6編を公開 農研機構](#) NEW
- ⑯ [黒字転換も通期純利益見通しは据え置き 農林中金25年度半期決算](#) NEW
- ⑰ [米の生産力維持へ 戰略作物で需要創出 自民党が水田政策で論点整理](#) NEW
- ⑱ [入札備蓄米 残り2万t 随契米は4万t未引渡し 農水省](#) NEW
- ⑲ [25年産米 収穫量746万8000t 9月予想より9000t下振れ](#) NEW
- ⑳ [「天敵利用」テーマにパネルディスカッション「第3回みどり技術ネットワーク全国会議」開催 農水省](#) NEW
- ㉑ [トマトの下葉処理 自動化ロボット開発 エンドエフェクタ交換で収穫に応用も 農研機構](#) NEW
- ㉒ [米の相対取引価格 3万7058円 過去最高を更新](#) NEW
- ㉓ [GI取得「しりうちにら北の華」など3商品が登録 農水省](#) NEW
- ㉔ [スーパーの米価 2週連続の上昇 5kg4316円](#) NEW
- ㉕ [畑地化 26年産取組みは支援単価引き下げ](#) NEW
- ㉖ [政府備蓄米 在庫32万t 11月12日時点](#) NEW
- ㉗ [集荷業者への融資 「米を売って返済」今年は？ 銀行のスタンスさまざま](#) NEW
- ㉘ [ブロックリー 大型花壷生産技術で労働生産性の向上を実証 農研機構](#) NEW
- ㉙ [備蓄米買い戻し 「入札壳渡分」は「随契」で 26年産買い入れは1月から21万トンを予定](#) NEW
- ㉚ [コスト着目の経営安定対策を ゲタ対策見直しも必要 全中が要請](#) NEW
- ㉛ [「節水型乾田直播」は収量安定化が不可欠 超党派「農業の未来を創造する議員連盟」が農水省・農研機構からヒアリング](#) (2) NEW
- ㉜ [鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉝ [鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉞ [鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉟ [鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉟ [鳥インフル 米国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉟ [鳥インフル 英国からの生きた家きん、家きん肉等 輸入を一時停止 農水省](#) NEW
- ㉟ [病害虫発生情報](#)

※ 本リンクは、インターネット上にある新聞や各種情報のうち、TAC・営農支援課が扱い手に関係する内容を収集して作成しています。

全農本所 耕種総合対策部 TAC・営農支援課

TEL:03-6271-8276

FAX:03-5218-2535

mailto:zz_zk_tac@zennoh.or.jp



HP

TAC・出向く活動パワーアップ大会2024「大会宣言」

我々TACは、

- 一、扱い手の声に寄り添い、
JAグループの力を發揮し、真摯に応えます。
- 二、扱い手とともに、
「地域農業」と「食」の未来を守り続けます。
- 三、TACなど訪問活動の輪を広げ、
新たな可能性に挑戦していきます。

★第2・第4水曜を基本に定期配信します（水曜日が祝日の場合は休刊します）★

※お休み等で配信日が変更となることもあります。ご了承ください。